

# 大橋川 通信



2006.8  
第14号

刊行 /  
大橋川コミュニティーセンター

大橋川周辺のまちづくりを考える

9/10

13:30 - 17:00  
(受付:13:00 - 13:30)

くにびきメッセ 多目的ホール

(日)

- ◆ 平成18年7月豪雨について
- ◆ 大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)

## 市民意見交換会

あなたの想いを  
大橋川周辺のまちづくりに反映させる機会です!

どなたでも

**自由に参加** できます

事前のお申し込みは必要ありません

▼ お問い合わせは・・・

大橋川コミュニティーセンターまで  
(0852)-28-3621・3622

星上山より松江市街地を望む

委員からは、「正確で詳細な情報発信を期待する」といった意見もあり、国・県・市では、引き続き速報値の精査やメカニズム等の検証を行い、情報提供していく予定です。



【第5回「大橋川周辺まちづくり検討委員会」の様子】

### 大橋川周辺まちづくり検討委員会を開催

第5回大橋川周辺まちづくり検討委員会を、8月10日(木)に島根県民会館大会議室で開催しました。始めに、7月豪雨による斐伊川・神戸川流域の被害(速報)について、写真や図、水位グラフ等を用いた各地の被害状況や、原因別にみた松江市街地での浸水パターン等の説明を行いました。

浸水被害については、①堀川等の水位が上昇したため支川の流れが悪くなり浸水する「内水被害」、②大橋川等からの排水溝(管)を通じた「逆流」、③大橋川等から溢れて浸水する「越水」と3つのパターンに分類され、松江市街地の地盤が低いことに起因していることや、宍道湖の水位が下がるのに時間がかかるため被害が長時間に及んだことの説明も行いました。

## 委員会主催「市民意見交換会」へ向けて「大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)」を検討

次に、前回の委員会に引き続き「大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)」について討議しました。大橋については、「現在の大橋を残すべきだ」という意見や、「安心して暮らすためには治水対策が必要で、大橋の架け替えとなるならば、風情や歴史を感じさせるもの以上に景観に配慮した橋にすれば良い」という意見ができました。

### 市民意見交換会の開催

これまで検討してきた「大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)」について、市民の皆様からのご意見を反映した上で基本方針を作成するために、「市民意見交換会」を開催します。

9月10日(日)13時30分より、くにびきメッセ多目的ホールで行い、どなたでも参加できます。

この機会に、多くの方々に参加して頂き、大橋川周辺のまちづくりについて話し合いたいと考えています。皆様のお越しをお待ちしております。

### 過去の資料のお問い合わせ先

これまでの委員会資料や、大橋川通信をご希望の方は、大橋川コミュニティーセンターへお問い合わせ下さい。

ホームページからもご覧頂けます。  
<http://www.nabe.ne.jp/~comisen>

## 大橋川周辺まちづくり基本方針（委員会案）の提案について

松江市は、美しい景観や伝統的な歴史文化を備える国際文化観光都市で、大橋川、宍道湖、中海などの豊かな水辺空間を有しています。

松江市は、水の都でありながら、大橋川の水はげが悪く、河岸が低いことから、これまで幾度となく水害に見舞われ、大きな被害を受けてきました。昭和47年7月および平成18年7月の大水害の教訓を生かし、水害に強い、安全で安心なまちづくりを進める必要があります。

城下町松江の市街地の中央を流れる大橋川は、船通山に源を発し、宍道湖と中海を経て、境水道から日本海に至る斐伊川水系の一部です。

大橋川周辺のまちづくりは、景観、水辺の利活用、環境、治水など多様な視点から検討する必要があります。大橋川の改修については、国土交通省が平成16年12月に計画の骨格となる「大橋川改修の具体的内容」を公表しています。

このような状況のもとで、学識経験者や関係団体の代表者による「大橋川周辺まちづくり検討委員会（以下、検討委員会）」が設置されました。検討委員会では、平成17年11月から平成18年8月にかけて、「大橋川周辺まちづくり基本方針」づくりに向けて議論を積み重ねてきました。

検討委員会では、行政・河川管理者から案を示すという従来の方法ではなく、行政・河川管理者の意見も参考にしながら、検討委員会が基本方針の内容について議論し、行政・河川管理者に、基本方針は「このようなものであるべきだ」という形で提案するという手続きをとっています。ここに示す案は、そのような過程を経てまとめられた委員会案です。

検討委員会は、以下の基本方針（委員会案）を委員会からの案として、行政・河川管理者に提出いたします。行政・河川管理者においては、本基本方針（委員会案）の内容と趣旨を十分に検討し、また大橋川周辺まちづくりの関係者および市民の意見を反映した上で、基本方針を決定するよう提案いたします。

平成 年 月 日  
大橋川周辺まちづくり検討委員会

### 「大橋川周辺まちづくり基本方針」について

「大橋川周辺まちづくり基本方針」（以下、「基本方針」）は、斐伊川水系全体の治水の歴史を踏まえ、松江を美しい景観や伝統的な歴史文化を備えた都市にふさわしいまちとするために、大橋川改修を含むまちづくりの基本方針として策定するものです。

「基本方針」は、それに基づいて策定される「大橋川周辺まちづくり基本計画」の基礎となります。

### 大橋川周辺の現状

斐伊川水系の宍道湖と中海を結ぶ大橋川を中心に発展してきた松江のまちづくりは、斐伊川水系の治水と深く関わっています。斐伊川水系の治水対策では、上流の尾原・志津見の2つのダム建設、斐伊川放水路の建設が進むなか、大橋川の改修が課題となっていました。大橋川の改修は、松江の洪水対策のためであるとともに、市内の河川や堀川の内水対策にも効果がありますが、松江大橋周辺の上流部、中の島と中州の位置する中流部、朝酌川との合流部から中海に至る下流部で、それぞれの地域の景観・環境などに大きく影響する可能性があります。そこで、どうすれば、景観・環境の維持・向上と水害に強く安全で安心なまちづくりとを同時に実現することができるかということが課題となっています。

### まちづくりの基本的な考え方

八雲立つ出雲の国の水都、松江のまちづくりは、まちと人と水が一体であるという思いのもとで進められます。

まちづくりでは、出雲神話やたたら製鉄をはじめとする出雲文化を形成してきた斐伊川流域全域を視野に置くとともに、松江から望むことのできる大山、周囲の山並み、宍道湖の夕景を構成する要素など、松江らしさを醸し出すすべての景観要素に対して深く配慮します。

古代の神々の息づく自然・風土、松江藩時代の歴史・文化等を踏まえ、季節の移ろい、一日のうちの変化の美しさをこのまちに住む人々とここを訪れる人々がともに喜び、分かち合えるまちづくりをめざします。

水路と水田や湿（性）地がおりなす自然環境、多様な水辺、伝統的な街並みを含む景観、歴史・文化、そこで営まれる暮らしを地域にふさわしい形で保全・継承します。失われたものを再生し、また、新たな価値を創出します。

景観については、まちづくりに関わる制度面も含めて検討を進めます。

なお、ここでいう「景観」や「景」には、視覚的な経験だけでなく、五感全体で感じることでできる風景を含みます。

平成18年9月10日に「市民意見交換会」を開催し、市民の皆様のご意見を反映しながら委員会案を決定していきます。

## 現段階での大橋川周辺まちづくり基本方針（委員会案）

ここで紹介する資料の他に、「上流・中流・下流部の中をエリア分けしたそれぞれの基本方針」を予定していますが、今後の作業の中で素案を作成していきます。

### 大橋川周辺のまちづくりのための地域区分

大橋川周辺を上流部、中流部、下流部に区分し、それぞれの特性に応じた整備を行うと同時に、全体の統一と調和を図ります。その際、大橋川だけでなく、大橋川から望むことのできる景観全体に最大限の配慮を払いつつ景観形成を行います。この場合、「景観形成」には、景観の保存、保全、創出、再生を含みます。

上流部では、現在より水に親しめるような水辺を創出するまちづくりを「親水の景づくり」、中流部は、水郷としての水路と水田や湿（性）地がおりなす自然環境と水景観を人とさまざまな生物が享受できるような整備を「遊水の景づくり」、下流部では、地域に伝えられるさまざまな歴史文化と自然環境を後世に伝えてゆく整備を「敬水の景づくり」と位置づけます。

3つの地域のそれぞれについて、景観と環境の保全・向上のための諸条件を明らかにし、これを踏まえたまちづくりと、それと一体になった河岸の整備を目指します。

上流部、中流部、下流部の3つの地域のそれぞれについて、地域に積み重なった歴史的な遺産を未来に受け継ぎます。保全すべきものについては、その考え方を明確に示し、それぞれの特徴に応じた適切な方法を用います。

#### 親水の景づくり

松江の魅力である水辺空間との一体性・近接性を活かしながら、洪水のリスクを下げるよう、創意工夫します。

宍道湖・大橋川のもっている静かなたたずまいを大切にします。

また、人びとが集い、行き交う、新しい活気のあるまちを創出します。

大橋川周辺のまちづくりによって、風情のあるまちとにぎわいのまちの調和を実現します。

#### 遊水の景づくり

水路と水田や湿（性）地がおりなす自然環境を保全し、また、環境学習の場としてなど、その活用を図ります。活用法については、さまざまな意見を踏まえて、最善の方法を検討します。

なお、治水上有効な遊水機能の保全にも配慮し、景観と自然環境を損なうことのないような河岸とします。

#### 敬水の景づくり

古代から続く歴史・文化の体験の場として位置づけ、この地域にふさわしい景観や川沿いの自然環境を保全・創出します。

整備の影響を受ける地域社会の維持・活性化に最大限の努力を払います。



### 今後の進め方

大橋川周辺のまちづくりは、大橋川を中心とし、市内の河川や水路を含む多様な水辺の整備および関連地域の整備とともに進められる、全国に比類のないものとなります。そこで、前例にとらわれず、創意工夫を行い、後世に誇れるような事業をめざします。

季節や時間の移ろいを感じることができ、城下町の情緒と彩りの豊かさを大切にすることを市民共通の認識の基礎として、まちづくりを進めるということを現代に生きるわたしたちの責務として自覚します。

とくに、これまで対立的であった治水と景観・水辺の利活用・環境の関係をより創造的なものに転換します。この点では、「大橋川改修に関する環境検討委員会」の検討を踏まえつつ、調整を図りながら、事業を進めます。

長い時間を要するまちづくり事業では、事業の継続性が重要です。計画段階から、設計、施工と品質管理、評価、維持管理に至るまで、松江市民および斐伊川水系流域に暮らす人びと、その他、松江のまちづくりに関心をもつすべての人びとが適切かつ十分な情報を手にいれることができ、また、意見を述べることでよいようにくみを整備し、活用します。

計画の初期の段階から合意形成のプロセスを取り入れます。合意形成のプロセスのさまざまな段階で情報を公開し、できるだけ多くの人びとの参加のもとで、まちづくりの目標づくり、具体的な設計、施工と品質管理、評価、維持管理等について、関係者による合意形成を図ります。

事業の直接的な影響を受ける人びとに対しては、十分に配慮します。

市民と行政・河川管理者を含むまちづくりに関わる人々は、この地域で培われた繊細な感覚・感性をまちづくりに活かし、また、まちづくりの過程で、さらにその感覚・感性を磨き、深める努力をします。まちづくりの過程で植えた松と柳の苗木が大きく育ち、このまちにすがすがしさとうるおいをもたらし頃の風景を目標に、まちづくりの時間を楽しみます。

## 「まちづくりと一体なった大橋川改修計画の策定」までの流れ

治水と環境とまちづくりの調和を目指した「大橋川改修の具体的内容」を公表後、「環境調査」と、景観を含めた「大橋川周辺のまちづくり」の二本柱で検討を進めています。

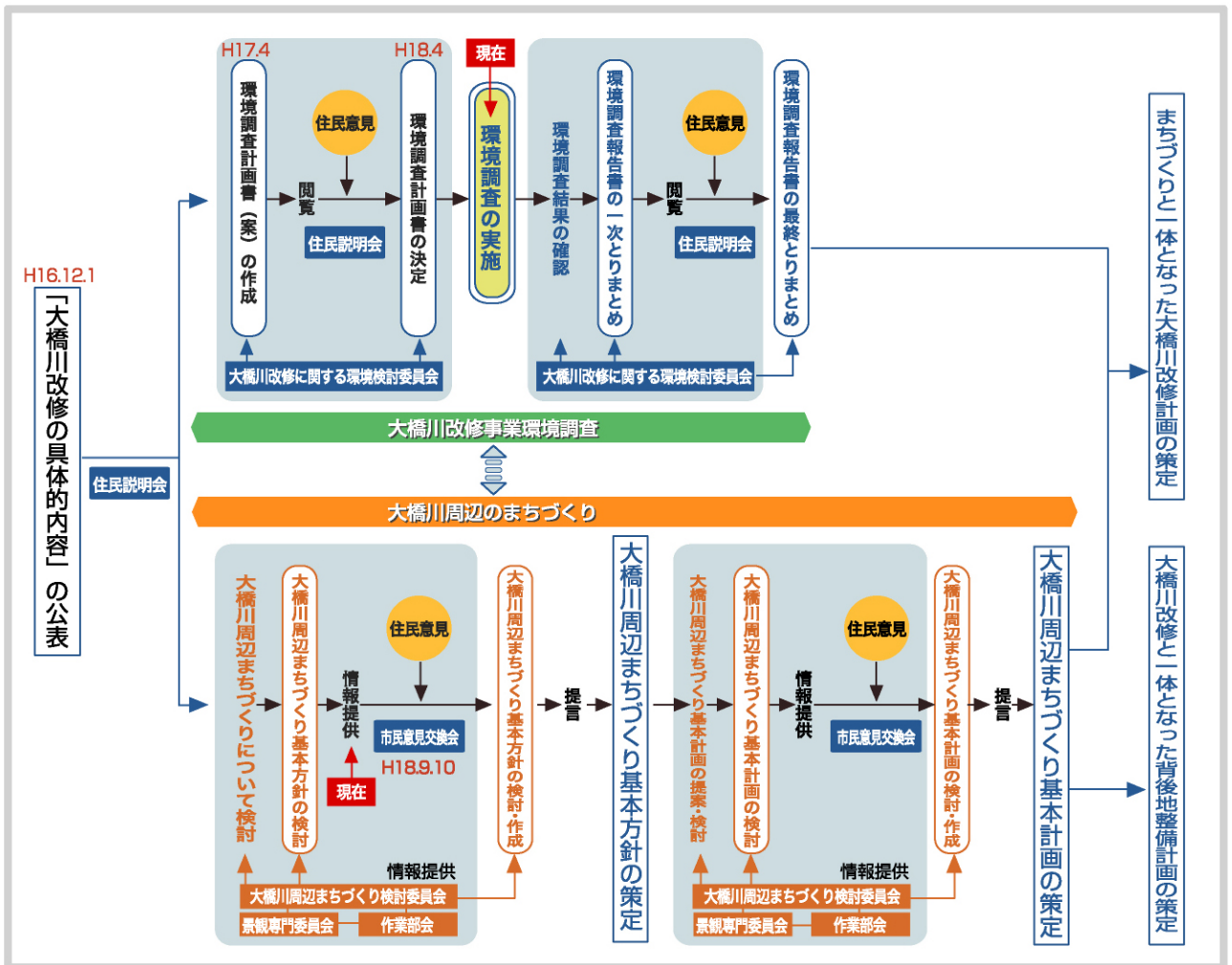
大橋川周辺のまちづくりについては、現在「大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)」を作成していますが、作成にあたっては、次の二つのポイントで進めています。

- 1) 行政や河川管理者が案を示すという従来の方でなく、委員が主体となって提案・検討し、行政へ提言する
- 2) 委員会として基本方針を作成するにあたり、市民意見交換会を開催し、市民の皆様の意見を反映する

基本方針の提言を行った後は、護岸や橋梁、背後の土地利用や沿川地域の活性化等、具体的な内容を決めていく「大橋川周辺まちづくり基本計画」の検討・作成を行います。この基本計画についても、市民の皆様の意見を聞きながら検討し、提言していきます。

最終的には、環境調査の結果や、大橋川周辺まちづくり検討委員会からの提言を受け、行政や河川管理者が以下の二つの計画を策定します。

- 「まちづくりと一体なった大橋川改修計画」
- 「大橋川改修と一体なった背後地整備計画」



大橋川周辺まちづくりに関するご質問・ご意見をお寄せ下さい

## 大橋川コミュニティセンター

[開館日] 年中無休(年末年始除く) [開館時間] 9:30~16:00 [駐車場] 5台程度

〒690-0841 松江市向島町134-1

TEL(0852)28-3621・3622 FAX(0852)28-3623

E-mail:comisen@mable.ne.jp

ホームページ: <http://www.mable.ne.jp/~comisen>

\*大橋川コミュニティセンターは、松江市と島根県、国土交通省出雲河川事務所が一体となって管理・運営をしています。

